2013

石巻・台湾アートプロジェクト

暫定報告

２０１３．５．１７

この暫定報告は、最終日の完成祝賀会で披露したスライドショー（台湾側作成）をもとに、若干のコメントを加えて構成したものです。情報の不足など不十分な点が多々ありますが、正式報告書ができるまで適宜ご活用ください。

石巻・台湾アートプロジェクト

日時：５月１日〜５月５日

場所：石巻市中心部各所

日台双方のアーティストによる作品で構成された家型のアートオブジェ（白屋）を製作します。また、誰でも参加できるワークショップによってストーンアートを作成し、白屋の周囲に設置します。期間中、中瀬公園やアイトピア通りの各所で様々なアーティストが実際に創作活動を行いますので、街中で気軽にアートを触れてみて下さい。

テーマ "PALAFAN"

「善意の交流、善意の訪問、心地よい出会いの挨拶」を表す台湾の言葉をイメージし、作品を創作します。

スケジュール

プレイベント

4月27日　10:00-　白屋建設開始［地図①］

28日　10:00-　つるの湯祭り・参加［地図②］
（つるの湯祭り実行委員会主催）

5月　1日　10:00-　開会式［地図①］

日台アーティスト公開製作［地図①・④］
ストーンアート創作　［地図①］

3日　10:00-　石巻プレイパークin中瀬［地図①］
（子どものための石巻市民会議主催）

4日　17:00-　アートシンポジウム［地図③］
コーディネーター：村上タカシ［MMIX Lab］

5日　15:00-　落成式［地図①］

MAP

お問い合わせ先
石巻・台湾アートプロジェクト実行委員会事務局（担当：松村・勝）
住所：石巻市中央２丁目10-2　TEL/FAX：0225-25-4953

主催　石巻・台湾アートプロジェクト実行委員会　　（公財）未来の東北博覧会記念国際交流基金助成金助成事業
共催　新台湾壁画隊　新故鄉文教基金會　台湾藝術發展協會
協賛　石巻市国際交流協会　石巻文化協会　（株）街づくりまんぼう　（公財）神戸文化支援基金
後援　石巻市　石巻市教育委員会　河北新報社　三陸河北新報社　石巻日日新聞社　ラジオ石巻

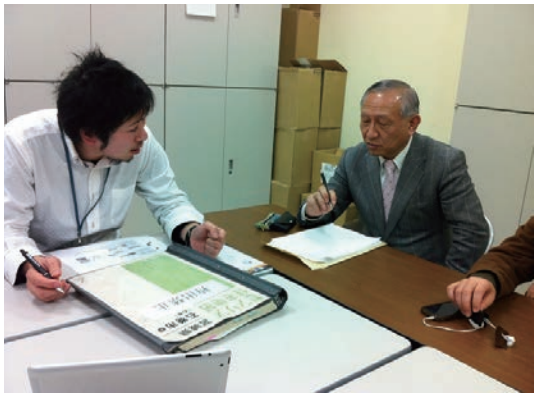
石巻・台湾アートプロジェクト実行委員会

事前準備

1 月 21 日　石巻協議

台湾、石巻、神戸の関係者で打合せを行なう。台湾からは、蒋、商、廖、顔さんの 4 名。

この辺りに「白屋」を建てる・・・と考えながら歩きまわる蒋さん。前方を歩くのは廖さん。



石巻市の建築確認担当部局と協議する。

今は冬。昨年夏描いたバナナボートも、雪原を進むかのよう。

1 月 22 日　駐日代表処訪問

台湾勢は東京にある台北駐日経済文化代表処を訪れ、プロジェクトの理解と協力を求める。この夜、青池組や山崎百香さん、台北文化中心主任などと懇談・交流する。

3 月 14 日　台湾協議

台湾埔里桃米村の紙教堂で打合せ。高雄の芸術村から蒋さん、商さんなど関係者が駆け付けた。

「311 を生きて」の埔里上映会へ招待された青池監督（右）も同席した。左は垂水さん。

4 月 6 日　実行委員会設立

石巻・台湾アートプロジェクト実行委員会が設立された。
会長は久我国際交流協会会長、実行委員長は西條文化協会会長、事務局長は松村 ISHINOMAKI2.0 代表理事。

挨拶する西條さん。

先発隊到着！

4 月 27 日　工作会議

商さん以下先発隊の 17 名が到着した。午後から早速、関係者が集まって工作会議。

創作のテーマは、善意の訪問、交流、コミュニケーションを意味し、心地よい出会いの挨拶である、台湾アミ族方言「**PALAFAN**」とする。

アート関係で、今回のプロジェクトに全面協力する宮城教育大学村上タカシ先生。

4 月 28 日　つるの湯まつり

被災した銭湯「つるの湯」(住吉町)は . 昨年 1 月再開した。その復興に尽力した全国のボランティアが、再び集まって地域の人達と「つるの湯祭り」を行なう。その中にはアート関係者が多く、台湾のァーティストとたちも、堤防にチョーク絵を描くなど、このお祭りに参画した。(住吉神社で)

4 月 27 ～ 29 日　台湾・北港馬祖進香

4 月 27 ～ 29 日、新台湾壁画隊のアーティストにとって縁の深い宗教行事「北港馬祖進香」が行なわれている。何人かのアーティストはこの行事の後、石巻を訪れる。

4 月 28 日　白屋建方開始

さあ、始めましょう。台湾の工作責任者葉さんと西條さん。

建築士に依頼して、レベルを出す。

まずは地面上で、枠を組む。
そしてロープを引っ張り建て起こす。「エイ、エイ、オー」「イチ、ニ―、サン」「イ―、アール、サン」
（次頁）

部材の数が多く組み立てるのに難航。葉さん・黄さん二人の功績

骨組み完成。ボランティアで手伝った東北工大の学生らとジャンプで記念撮影。

4月29・30日　視察・交流

今回同行した台南前県長、旅行社社長などは、被災地観光など今後の交流発展を視野に、松島町、宮城県、仙台市などを訪問した。

台南前県長は、台湾からの観光客に呼び止められる場面も。

青葉城址で宮城県経済商工観光部次長の西村さんと記念撮影。

4月27～29日　台湾・北港馬祖進香

全員集合。さあ、始まり！

5月1日　開幕式

蒋さん以下15名の後発組も昨日到着した。いよいよ本番がスタート。

開幕式は日本式のテープカット。

5月2日　石巻市表敬

石巻市役所を表敬訪問。今回はアーティスト中心で訪れた。
対応してくださった副市長は、昨年に続いて2度目だけに、打ち解けた様子で様々な話題に華が咲いた。

5月1～5日　壁画創作

創作に参加するアーティストたちは、台湾側が16名（イタリア人1名を含む）、日本側は26名である。

季節外れの低温と強風。しかし、台湾勢は白屋の現場制作を選んだ。
白屋の中に回って制作するが、寒さに慣れない台湾メンバーにとっては難行だったかも。あるアーティストのfacebookには、「修行を越えてこそ喜びがある」

5月2～3日　大槌視察行

蘇前県長、廖さんなど台湾メンバー８人は、次のプロジェクトの打診と被災地視察を行なうため、バスをチャーターし大槌へ向かった。これには石井さん、天川さん、小林さん、青池さんなど被災地市民交流会のメンバーも同行した。

● 5月2日

大槌町役場を訪れ、町長を表敬する。（前列左２人目）

復興に取り組む「おらが大槌夢広場」を訪れる。
おらが大槌復興食堂にて。

昨年の大槌壁画プロジェクトで共同した大槌高校を訪れる。美術部の藤田先生、昨年参加した生徒さん達と懐かしい再会。

中央の３人の高校生はその後神戸を訪れた

● 5月3日

この日はまず、＠リアスNPOサポートセンターが運営する、釜石市只越町の「みんなの家かだって」（伊東豊雄設計）を訪ねた後、１日かけて石巻まで沿岸部の被災地を視察した。お疲れ様。

釜石市大只越町仮設店舗　「青葉公園商店街」

釜石市唐丹町の破壊された防潮堤と平田総合公園仮設

釜石市平田総合公園仮設の「みんなの家」（山本理顕設計）

大船渡市　カリタス大船渡ベース「地ノ森いこいの家」

陸前高田市　　奇跡の１本松

気仙沼市　　気仙沼復興商店街　「南町紫市場」

5月3～5日　ストーンアート

3日～5日は、白屋での壁画創作の傍で、石に絵を描くストーンアートを実施した。津波以前「萬画館」の正面玄関前に使用されていた積石を利用しようういうものだ。

連休で萬画館に遊びに来ていた子供たちが次々と参加する。黄色のシャツは、被災した子供たちの活動支援する「にじいろクレヨン」のボランティア。

出来上がったストーンは基礎押さえを兼ねて白屋の足元に並べられた。

石巻市民も台湾のアート絵ハガキに見入る。正面は今回全日程通訳を担当した林亭儀さん。

今回のプロジェクトで、アート創作活動の基礎づくりに大きな役割を果たした、アトリエコパンの新妻さん。（左２人目）台湾アーティスト代表李俊陽さんと。（右２人目）

5月1～5日　町なかアトリエ制作

白屋での制作だけでなく、天候に左右されず、市民との交流も可能な制作場として、中心市街地の空店舗２か所を借上げ、臨時アトリエを開設した。

ビニールで全面養生を施し、横に寝かせての制作も可能になった。

5月4日　トークセッション

昨年実施したトークセッション「被災地とアート」を今年も「アートによるまちづくり」をテーマに開催した。
村上タカシさんが総合コーディネーター、松村豪太さんが進行役で、活発な議論が行なわれた。

完成、最高！

5月5日　完成式

町なかアトリエで制作されたパネルも、次々と白屋に運ばれて取りつけられた。
そして、赤い大きな布で覆われる。
完成セレモニーは台湾式で行なわれた。

まず、赤い幕の前で若い二人のアーティストによるダンスパフォーマンス。

土地の神様への感謝の儀式。
そして全員で幕を引く。

多くのアート作品が完成した。
しかし、もっと大切なことは、多くの出会い、多くの交流、多くのコミュニケーション
つまり、多くの「PALAFAN] が実現したことかもしれない。

台湾から再訪した 32 名のアーティストや関係者たち、地元や全国から駆けつけた日本のアーティスト達、それを温かく迎えていただいた石巻市民、行政当局の皆さま、台湾からの留学生をはじめ多くのボランティアの方々、そして、実行委員会に加わってこのプロジェクトを推進していただいた方々。
本当に有難うございました。

じょっぽー
台湾語

サイコー
日本語